

地域連携支援プログラム
報告書
(平成 30 年度)

東海学園大学

地域連携支援プログラム報告書（平成30年度）

目次

域学連携一覧

みよし市との包括協定による活動一覧	ii
名古屋市天白区との包括協定による活動一覧	ii
名古屋市農業センターとの包括協定による活動一覧	iii

平成30年度実践プロジェクトから

○【経営学部】豊田市「百年草」との連携活動	1
○【経営学部】みよし市における新名物お菓子の開発	3
○【人文学部】犬山市立図書館古典籍調査	5
○【教育学部】朝日村造形ワークショップ	7
○【教育学部】名古屋市天白消防集団災害訓練	9
○【スポーツ健康科学部】平成30年度三好特別支援学校体育活動支援 小学部児童とのダンス交流	11

○【スポーツ健康科学部】平成30年度豊田市ハンドボール協会

チャレンジカップリーグ講習会 · · · · · · · · · 13

地域連携支援プログラム全活動概要一覧

• 25

域学連携一覧

- ・通年の実施は冒頭に、その他は実施時期の順番に配列した。連續の場合は、初回実施時期に依った。
- ・【 】内の数字は「地域連携支援プログラム全活動概要一覧」の各単位の表番号である。
略称：経営＝経営学部、人文＝人文学部、スポ＝スポーツ健康科学部、栄養＝健康栄養学部、センター＝健康開発センター、プラザ＝健康栄養プラザ、推進室＝地域連携推進室
- ・三好ともいきスポーツクラブは学外組織のため末尾に置いた。
- ・活動の詳細は、後掲の一覧表をご覧いただきたい。

みよし市との包括協定による活動一覧

・図書館開放【図書館1】	33
・名古屋グランパスエイトとの名鉄三好ヶ丘駅における J 1成績情報ボードの設置・運営【経営1】	25
・夢たまご社とのみよし市における新名物お菓子の開発【経営2】	25
・コミュニティFM エフエムとよた「みよしコミュニティーニュース」【人文1】	26
・みよし市立黒笹小学校への学校支援ボランティア（水泳授業補助）派遣【スポ1】	29
・みよし市北中学校への学校支援ボランティア（水泳授業補助）派遣【スポ2】	29
・三好特別支援学校小学部体育授業支援 ダンス交流【スポ4】	29
・考えてみよう！ワーク・ライフ・バランス ～仕事と生活の調和～実現への取り組み【スポ6】	29
・三好丘子ども会運動教室【スポ7】	29
・三好丘旭子ども会運動教室【スポ9】	29
・三好ともいきスポーツクラブ【三好ともいきスポーツクラブ1～9】	41

名古屋市天白区との包括協定による活動一覧

・図書館開放【図書館1】	33
・天白カルタプロジェクト【人文4】	26
・天白区訪問介護事業者ネットワーク研修会の開催【栄養6】	31
・天白区区民まつり【栄養7】	32
・みんなの元気フェスタ in てんぱく【栄養10】	32

・天白健康づくり隊勉強会【センター3】	35
・名古屋市立原小学校トワイライトスクール活動支援【推進室1】	39
・天白区の原学区・平針南学区学習サポート活動支援【推進室2】	39
・公開講座(連携:天白生涯学習センター)「歌舞伎入門(2018春)」【推進室3】	39
・公開講座(連携:天白生涯学習センター)「歌舞伎入門(2018秋)」【推進室11】	39

名古屋市農業センターとの包括協定による活動一覧

・とうがく生による「食と元気のチェックラボ」【栄養1】	31
・ナスで簡単おやきづくり【栄養4】	31
・「健康&野菜イベント」【栄養9】	32

豊田市「百年草」との連携活動

1. 目的・概要

百年草は、ホテル、フレンチレストラン、足助ハムの ZiZi 工房、ベーカリーバーバラはうす、日帰り入浴などの機能を備えた施設である。百年草と本学の連携活動では、百年草を舞台に宿泊客に向いたイベントを主体的に企画、運営することの困難さ、達成感などの体験を通じて学生たちが成長することを目指した。また同時に、学生たちが企画、運営するイベントを通じて、百年草の集客や収益のアップに貢献することも目指した。

5月10日（木）、豊田市足助町へ訪問し、香嵐渓と昔ながらの町並みの調査を行った後、百年草の施設見学と支配人へのヒアリングを実施した。訪問後、現地調査で得た予備知識を考慮しながら、イベントの企画を学生13名が3チームに分かれて検討した。

7月12日（木）、百年草の支配人と豊田市役所足助支所の担当者に対して各チームが企画したイベントのプレゼンテーションを実施し、企画内容に対するコメントや質問をいただいた。その後、企画内容を修正し、イベント運営に向けた準備を行った。

8月9日（木）から12日（日）にかけて、企画したイベントを宿泊客向けに実施した。Aチームは「望遠鏡作りと星空観察」および「鮎つかみ」、Bチームは「たんころりんと思い出作り」、Cチームは「世界に1つだけのハンバーガー作り」に取り組んだ。

2. 担当部局

経営学部経営学科	教 授 伊藤 久司
経営学部経営学科	准教授 山田 裕昭
百 年 草	支配人 大河原 有史
豊田市役所足助支所	副主幹 杉本 憲彦

3. 所見・成果

豊田市足助町で実施した現地調査では、実際に歩き、目で確かめたり、多くの方々から話しを伺ったりすることによって、ネットでは分からぬ情報があり、それらの情報がイベントを企画するうえで重要なことを学生たちは理解した。また、企画の立案においては、4、5名のチームで企画を練り上げていくことの難しさ、意見の対立を経て企画がまとまった時の充実感など学生たちはグループワークの醍醐味を経験した。



足助の町並みを調査



支配人からの説明と質疑応答

百年草の支配人と豊田市役所の方へのプレゼンテーションでは、ターゲットの明確化、イベントの集客性や採算性、イベント運営の詳細など、厳しくも暖かいコメントをたくさんいただき、学生たちは実際に組織を運営されている方や社会の厳しさを実感し、一時的に落ち込む学生もいたが、関係者の期待に応えられよう再度検討を重ね、イベント内容をブラッシュアップしていった。

百年草でのイベント実施に際しては、望遠鏡の設計及びキットの作成、アプリを活用したオリジナル星空解説の作成、たんこりんの編み方修得、具材カードの作成など、各チームが万全な準備を行った。イベント当日は、老若男女が大いに騒ぎ、おいしく焼いた鮎をほおばったり、親子でボリューム満点のオリジナルハンバーガーを作ったり、子供から大人まで多くのお客様の笑顔と触れ合うことができた。



支配人等へのプレゼンテーション



鮎つかみ



星空観察



ハンバーガー作り



オリジナルハンバーガー

今回の連携活動を通じて、学生たちは人（仲間・関係者）の意見を聞きながら、自分の考えを理解してもらうことの難しさや主体的に各自の役割を進めることの大切さを感じるとともに、お客様の感謝の言葉に触れることで達成感を体感し、一回り成長することができた。イベントの成功は、百年草関係者の皆様に全面的にご協力いただいたおかげであり、ここに改めて感謝申し上げる。

なお、この取り組みは中日新聞豊田版（8月11日付）ととよたみよしホームニュース（9月14日付）で取り上げられた。

みよし市における新名物お菓子の開発

1. 目的・概要

経営学部丸山ゼミでは、経営の現場・現物・現実と経営学の理論や概念をリエゾン（橋渡し）できる力の醸成を目指して活動している。今期の2年生はみよし市の鶏卵業者様と同社の卵を使った新しいみよし市の名産品となる菓子を共同開発した。

百貨店の菓子売り場で競合製品を調査したり、パティシエの方から菓子づくりのアドバイスをいただいたりしながら、最終的にはみよし市のふるさと納税における返礼品に採択いただけるように商品をまとめている。

SNSで商品が映えるための商品デザインやパッケージなどに工夫をしつつも、値ごろ感のある価格を実現するために現実的なコストとなるよう、様々なステークホルダーとの調整や現実の商品づくりの困難について体感した。ここで完成したお菓子をオープンキャンパスで展示するなどして顧客の反応を確かめ、実際の売り場での陳列方法などを今後は検討していく。

協定書：みよし市包括協定書 委託金：無

2. 担当部局

教員 丸山一芳 東海学園大学経営学部准教授

学生 丸山ゼミ 2年生 (15名)

学外協力者 株式会社 夢たまご 代表取締役 長瀬 豊子様

みよし市役所 産業課・財政課

3. 所見・成果

(1) みよし市役所産業課・財政課訪問

ゼミでみよし市産業課・財政課に訪問し、ふるさと納税制度の現状などを財政課の方々より学習した。今回開発するお菓子をみよし市の新しい名物お菓子として、将来はふるさと納税の返礼品に採用いただくためである。

また、産業課ではみよし市での中小企業向けの産業振興補助金の制度についてお聞きした。身近なみよし市における財政と産業振興のあり方についても学習した。



(2) 夢たまご社ならびに洋菓子店を訪問調査

夢たまご社の養鶏場を訪問して、卵の生産現場で実際にパッケージングなどを体験しながら、開発商品の材料である無添加卵の味や特徴などについて調査した。また、ブランディングに生かせるストーリーとなる生産者の思いやこだわりについてもお聞きした。

さらに、コンビニスイーツの監修などを手掛けている有名パティシエの在籍する洋菓子店を訪問して、ヒットする菓子の新製品づくりについても学習した。



(3) 菓子のデザインと試作

商品化のプロセスでは、美味しい期間と販売期間を少しでも長くするため日持ちすること、配達時にも形を維持するため型崩れしないこと、冷蔵はコストがかかるため常温保存が出来ることなどの条件も見出していった。さらに、デザインを商品に実現するためには想像以上に試作に困難が伴うなどの現場の現実ならではの事柄も体験できた。



犬山市立図書館古典籍調査

1. 目的・概要

元中央公民館に寄贈され未整理のまま犬山市立図書館が所蔵する古典籍を整理し目録を作成したいとして、大橋准教授に協力依頼が寄せられた。一方、人文学部には図書館司書資格を取得できるプログラムがあり、受講する学生も多い。また日中の古典籍を研究している教員もいる。そこで、貴重な実地経験の場として学生も参加させることを許可していただき、書誌調査を実施した。

図書館ではすでに全冊に整理番号を付し、小曾川真貴司書によって仮目録データを作成済みであった。そこで本学の取り組みは、(1) 再調査によって図書館が作成した仮目録の書誌情報を点検すること、(2) 書籍目録の作成、(3) 犬山図書館での展示の3点とし、そのうち調査点検と展示準備に学生を参加させることとした。ここでは1年目の再調査の取り組みを報告する。

2018年5月7日・15日の2回にわたり、大橋ゼミ・松尾ゼミ・村主ゼミの3年生を対象に、本学名古屋図書館において事前学習を実施。和書は大橋が、漢籍は松尾が担当して書誌学の基本知識を学んだ後、大学図書館所蔵の典籍を使用して和書および漢籍の書誌情報をとる練習をした。



2018年5月23日、犬山市立図書館において、加藤憲夫館長より犬山市および図書館の概要をうかがった後、仮目録と現物を対照する抽出調査を実施した。その結果、すべての典籍を再調査することに決定し、学生には採寸と丁数の点検を主とし、書入れや貼付などのチェックも合わせて担当させることになった。

その後、大橋・松尾・村主の3名の教員が有志学生を帶同して残りの典籍と仮目録との対照調査を実施した。総数約300点900冊。日程と参加学生数は以下の通りである。

2018年5月23日（3年生14名）、7月17日（3年生1名）、8月16日、11月27日（3年生1名）

2019年2月5日（2年生2名）、3月13日（2年生1名）、5月14日（3年生2名、4年生2名）

協定書 無（教育委員会よりの依頼状）・委託金 無

2. 担当部局

人文学部

担当者

大橋崇行 東海学園大学人文学部准教授

松尾肇子 同教授

村主千賀 同准教授

学生延べ24名

3. 所見・成果

当初想定していた以上に時間がかかり年度を跨いだが、全冊調査を終えることができた。調査対象となった古典籍には、江戸時代後期の元号の記載のある漢籍、軍記物や謡曲などの和本、幕末の異国船情報の写本、さらに下って明治時代の教科書や活字本、日露戦争当時の写真帳など、年代も内容も各種各様の書物があった。旧蔵者は一人ではなく、数次にわたって寄贈されたものと思われる。図書館では今回の調査を踏まえて選本を進めることで、そのための基礎資料は提供できた。

一方、学生にとっては、人生に何度もあるわけではない貴重な学習の機会となった。事前に手を洗うことや装身具をはずすことから始まる古典籍の扱い方はもちろん、正確な採寸の技法、刊行年の見方など、多くを修得した。さらに自分が入力したものがそのまま図書館のものとなる責任を感じ、10時～17時という長時間の作業にも関わらず、毎回どの学生も緊張感を切らさず調査に取り組めた。また、閉架書庫に入るなど、図書館の裏側を見ることができたことは学生には嬉しい体験だったようである。知識だけにとどまらず、机上の学習では得られない経験を得、社会的責任を負うなど多くの学びに繋がった。



犬山市立図書館にて、館長より犬山市および図書館の概要をうかがう。

図書館は2020年に設立30周年を迎えるが、その記念行事に今回の調査の結果を生かしたいとの言葉に、少し緊張。

館長の後ろには閉架書庫が見える。



各種の書物を取り出して抽出調査を実施。

和書、唐本など適宜割り当てられた書物を二人一組で調べていく。あちこちから挙がる手に、教員は駆け回った。

壊れそう、破れそうと、こわごわ触れていた本にもだんだん慣れた頃の写真。



すっかり手慣れて、仮目録データと対照しながら黙々と調査。パソコンと巻き尺が必須アイテム。

朝日村造形ワークショップ

1. 目的・概要

東海学園大学教育学部小島雅生ゼミは、2013年度より長野県東筑摩郡朝日村をフィールドとして造形ワークショップを行ってきた。学生はそのスタッフとしての運営ボランティア活動に参加し、地域の方々との交流、造形活動を行った。

活動の目的は地域への貢献と学生の成長の両面である。まず、大学生が訪問してイベントを行うことで子どもや地域の人々と交流し、学生が造形活動を通して造形芸術の意義や大切さを学び、人とかかわる力や思いやりの心を養い、豊かな人間性をはぐくむことが目的である。

2018年8月7日(火)に造形プログラム活動として、2018朝日村親子造形ワークショップ〈朝日の自然から生まれる「枝と糸のまきまきアートPart5」〉を企画、実施した。自然豊かな環境である朝日村で素材を収集し、子育て支援センターわくわく館スタッフと地域の子どもとともに、朝日村中央公民館を会場に、自然環境から感じられるインスピレーションを基に、朝日村の子どもと大人65名と本学生にて造形ワークショップを行った。

協定書・委託金：無

2. 担当部局

小島雅生 東海学園大学教育学部准教授

協力機関：朝日村教育委員会・朝日村子育て支援センター・朝日村わくわく館

3. 所見・成果

朝日村において、教育学部の小島雅生が主催する造形ワークショップは、地域にとっても夏の恒例行事となりつつあり、2018年度も教育学部教育学科の小島雅生ゼミ学生と教員合計11名で訪れ、地域の方々との交流、活動を行った。2018朝日村造形ワークショップ〈朝日の自然から生まれる「枝と糸のまきまきアートPart5」〉として、朝日村で枝素材を収集し、朝日村中央公民館で、朝日村の子どもと大人65名と本学生で造形ワークショップを実施した。

まず、朝日村の野山で、自然素材である「枝」を収集。各自で探し、収集することで、「素材との出会い」という、ワークショップの一番大切な部分に触れる。公民館に移動後、その「枝」に様々な糸を巻き付ける。巻き付けるだけの行為の中から見えてくる芸術表現や現象。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通して、アートという表現に生まれかわる。以前、ひとりひとりの思いを込めた「不思議な枝と糸のまきまき神様」を制作。今年度は昨年度に引き続き、個人個人の作品制作から全体での共同作業に発展させる活動とした。朝日村住民及び本学生を6つのグループに分け、グループごとに協力して共同作品を制作した。

この造形活動を通して、本学生が自然環境の豊かさや大切さを感じ、地域の方々と交流することによって、積極的な人とのかかわり、コミュニケーション能力を培うことができた。地域の方々の思いを尊重し、どうかかわれば良いかを判断する。造形活動と自然環境によって、より自分を解放し自己表現できたといえる。



また、地域の人々にとっても、他地域からの大学生との交流による刺激、親子間のコミュニケーションを得る機会となった。何より、自分の地域の魅力や特性の再確認につながった。本学生にとっても、地域住民にとっても意義のある活動といえる。朝日村、塩尻市の協力者からも、次年度以降もぜひ継続したいという意見があり、2019年度も継続中である。



名古屋市天白消防集団災害訓練

1. 目的・概要

<目的>

集団災害発生時の消防署職員の対応を傷病者の立場から把握し、養護教諭になった際の対応に活かす。

<概要>

日 時：2018年12月23日（日）9時半～11時半

場 所：名城大学天白キャンパス

参加者：天白消防署、瑞穂消防署の隊員、東海学園大学養護教諭専攻1, 2年生14名、名城大学災害ボランティア3名、東海学園大学教育学部教員1名、名城大学職員3名

事 案：名城大学天白キャンパス2号館エスカレーター故障で学生たちが将棋倒しになつた
協定書・委託金なし。依頼状あり。

2. 担当部局

指揮：名古屋市消防局天白消防署の救急・消防

傷病者指導：石田妙美（東海学園大学教育学部准教授）



3. 所見・成果

訓練当日の天候は曇時々小雨となる寒い日であった。名城大学天白キャンパスには朝早くから、救急車3台の他、はしご車、消防車、指令車などの集団災害関連車両、約10台が続々と構内に入ってきた。

集団災害訓練担当者から渡された傷病者の傷病内容が記載されたメモをもとに、学生たちは傷病者らしく演じられるように相談しながら役作りをした。

開会式後、訓練開始となった。事故発生場所であるエスカレーターは停止、学生たちはエスカレーターの下方に将棋倒しの状態で救助を待った。



しばらくすると救急隊員がやってきた。救急隊員たちは一度報告に戻り、重症・中等症・軽症の患者を処置するエリアを廊下に作成し、傷病者のトリアージが実施された。大きな声で救助を求める傷病者や、文句やわがままをいう傷病者への対応に追われ、声が出せない重傷者の救助はかなり遅れてしまうという課題が明らかになった。また、軽症でも傷病者を把握し現場で待機させるのが基本であるが、「講義がある!」「バイトに遅れる!」という学生の演技に惑わされ、傷病者を帰してしまうという課題もみられた。救急隊員でさえ訓練経験が少ない場合では課題が生じることを学び、養護教諭としてもいろいろな対応をシミュレーションして学ぶ必要性を感じた。また、どんなに軽症な傷病者でも専用車両に乗せ、そこで手当てを受け、病院（今回の訓練では愛知医大）に搬送することも学んだ。



通常の救急事案と異なり、集団災害は傷病者が何人発生しているかわからない状況である。できるだけ早く傷病者を把握し、重傷者を早期発見・早期対応することが特に重要であることを改めて学ぶ貴重な体験となった。

学校は大勢の児童生徒の命を預かる場である。万が一の場合に備え、教職員と連携して子どもの状態をできるだけ早く把握し適切な対応できるよう、今後も機会があれば訓練に参加して集団災害時の対応を学びたい。

平成 30 年度三好特別支援学校体育活動支援

小学部児童とのダンス交流 活動報告

1. 目的・概要

三好特別支援学校小学部とスポーツ健康科学部の学校体育活動支援活動は、みよし市と本学の包括協定により平成 26 年度に始まった。その中でも本報告に関連する小学部児童への体育活動支援では、初年度より継続して音楽に合わせたリズムダンスやストレッチによるプログラムを展開している（以下、ダンス交流と呼ぶ）。ダンス交流では三好特別支援学校に通う児童に運動プログラムを提供する教育的な実践活動を通して、障がいを持った子どもたちにからだを動かすことの楽しさや喜びを経験してもらうことならびに活動全体を通して学生が保健体育教員としてもしくはスポーツ健康科学を学び社会に貢献する人物としての資質・能力の向上を目指していくことを目的にしている。プログラムへの参加者は、初年度はスポーツ健康科学部で玉川大学通信教育学部との連携による小学校教員養成プログラムの履修生（3年生）と三好特別支援学校小学部 5年生の児童であった。平成 27 年度からはゼミ主導の活動として展開している。平成 27、28 年度は小学部 5年生の児童とスポーツ健康科学部専門演習 I 履修者（3年生）、平成 29 年度からは小学部 4年生の児童とスポーツ健康科学部専門基礎演習 II 履修生（2年生）を中心に、いずれも田中ゼミの学生が参加している。

平成 30 年度は秋学期を通して活動を実施し、授業見学（9月）と 4回の交流（10月～翌年1月にかけて月1回）およびそれらに関連する打合せを行った。運動プログラムの内容は、交流する児童の特性や育てたい力について特別支援学校の先生方のご意見を伺い、前半2回をリズムダンス、後半2回をいすを使ったリズムストレッチを行うこととした。また、1回のプログラム構成（約40分）については特別支援学校の先生方にご助言をいただき、先生方にご担当いただく部分と学生が担当する部分をつくることを決定した。学生担当部分のリズムダンスおよびリズムストレッチについては、学生が選曲および考案した動きに対しては事前に特別支援学校の先生方にチェックおよびアドバイスをいただき修正をして児童との交流につなげる流れであった。また、各交流終了後に実践に関する振り返り会を行い、次回への改善点について意見を出し合って次のプログラム計画を立てていった。これらの活動の繰り返しにより、学生たちはより良い実践になるよう努力した。

協定書：みよし市包括協定書 委託金：無



2. 担当部局

田中 望 東海学園大学スポーツ健康科学部講師

学生 田中ゼミ生 2年生 13名・4年生 4名

協力：三好特別支援学校 小学部主事 田中先生、4年生学年主任 松浦先生、

各クラス担任 千葉先生・小林先生・目黒先生

3. 所見・成果

学生の事後レポートでは全ての学生がこのダンス交流が彼ら/彼女にとって意義あるものであったと述べた。それは、ある一定期間、1対1で児童と交流する機会を持つことができたことや自らが指導する立場に立ち（お手伝い的立場ではなく）児童に対して責任をもって接することが要求されていたことが影響したと考えられる。また、現場の先生方によりそれらを保障していただいていたことも大きい。実践は、「プログラムの計画」→「実践」→「振り返り」→「改善案」→「実践」・・・という

PDCAサイクルを積み重ねて行われた。4回の交流を貫く課題は、「自分とは異なる身体性に触れ、どう工夫すれば児童にからだを動かすことの楽しさを感じてもらう経験を提供できたり、挑戦してみることの場を作り出したりすることができるのか」ということにあったようだ。これについて、「どうすればよいか分からぬ状況」については現場の先生方にアドバイスをいただきながら、「改善策が明確な状況」については学生相互の実践例を共有することにより少しづつ改善していく様子がうかがえた。改善については、言葉のかけ方、言葉を介さないコミュニケーションの取り方、双方に工夫があったようだ。特に、学生は交流を通じて、重要なことは児童と気持ちを通じ合わせることや喜びや楽しみを共有していることを児童に伝えることであると考察し、それが交流に反映されていた。



また、交流を始める前は障がいに対してどうしてもネガティブなイメージを持つ学生が少なくなかつたが、交流が終わる頃には、自分たちの一方的なイメージから解放されポジティブなイメージを持ってコミュニケーションを取ることができるようになっていた。これには実際に児童と関わることにより得られた実感に加えて、学校での先生方と児童との間における見て取ることができる関係性から得られた部分も大きいと感じる。



さいごに

学生にとっては、自身の幼、小、中学校での経験や僅かに学んだ障がいの知識をもって準備や実践にあたるしかなかった初回の交流から4回目の最終回まで、うまくいくことのほうが少なかつたようだ。しかし、その中で必死になって一人の児童と向き合い活動を通して喜びを感じることができたことは貴重であろう。さらに、特別支援学校やそこで働く教師の役割についても現場に入らせていただくことにより学ばせていただけたことは得難い経験となった。また、交流に参加した児童にとって少しでもからだを動かす楽しさを味わってもらえたり、少し難しい動きに挑戦してできたときの喜びを感じてもらえたりしていれば大変幸いである。

平成 30 年度豊田市ハンドボール協会 チャレンジカップリーグ講習会報告

1. 目的・概要

豊田市ハンドボール協会と本学女子ハンドボール部は、平成 31 年度 2 月より、主に中高生などのジュニア期を対象とした強化事業に関して協定を結んでいる。平成 31 年 3 月 28~29 日には、主に女子中学生のハンドボール選手を対象とした「チャレンジカップリーグ」という大会を開催した。これは、リーグ戦や講習会などを通じてハンドボールの競技力向上を目指すことを目的に行われた。28 日には、参加校同士のリーグ戦を行い、29 日には、午前中に講習会、午後に試合を行った。参加者は約 70 名であり、本学女子ハンドボール部 9 名が講習会の講師や運営スタッフとして参加した。本学女子ハンドボール部が本活動に参加する目的は、学生の立場ながら講師として講習会を行うことで、学生にとって多様な学びを得られること、運営スタッフの活動を通じて、運営の方法について学ぶことができること、活動全体を通じて豊田市のハンドボールの活性化に貢献することができることの 3 点が挙げられる。

本活動のタイムスケジュールは以下の通りである。(協定書有り、委託金無し)

・3 月 28 日 (1 日目)

8:45~9:15 : 会場準備、受付
9:20~9:30 : 開会式
9:35~9:50 : ウォーミングアップ
9:55~15:40 : リーグ戦
15:45~15:50 : ベスト 7 発表
15:55~16:10 : ベスト 7vs 東海学園大学
16:15~16:25 : 閉会式
16:30~16:50 : 片付け、撤収

・3 月 29 日 (2 日目)

8:45~9:15 : 会場準備、受付
9:20~9:30 : 開会式
9:35~10:00 : ウォーミングアップ
10:05~11:15 : オフェンストレーニング講習会
11:20~12:30 : ディフェンストレーニング講習会
12:35~13:00 : 休憩
13:05~15:25 : 試合 (学生のアドバイスタイム)
15:30~15:45 : 学生への質問タイム
16:00~16:20 : 閉会式
16:20~16:40 : 片付け、撤収

2. 担当部局

教員：永野翔大（スポーツ健康科学部 助教、女子ハンドボール部監督）

職員：加藤由起子（三好キャンパス学生生活支援センター室事務職員、女子ハンドボール部コーチ）

学生：女子ハンドボール部 9 名（スポーツ健康科学部 8 名、教育学部 1 名）

3. 所見・成果

本活動の終了後、参加者からは「今までできなかったプレーができるようになった」などの前向きなコメントをいただいた。講師を担当した学生からは「最初は不安だったが、教えたことをできるようになっていく姿が見られてよかったです」「試合の中で教えたプレーを使ってくれた時はとても嬉しかった」などの発言があり、指導する立場として大きな学びを得たように感じた。豊田市ハンドボール協会からも学生の指導の様子に対して高評価を受けた。また、本活動の 1 週間後に行われた本学の女子ハンドボール部が参加した東海学生ハンドボールリーグ春季大会に、チャレンジカップリーグに参加いただいた中高生やその保護者の方々が応援にかけつけてくれた。このことからも地域連携の意義は達成されたと考えられる。

4. 参考資料



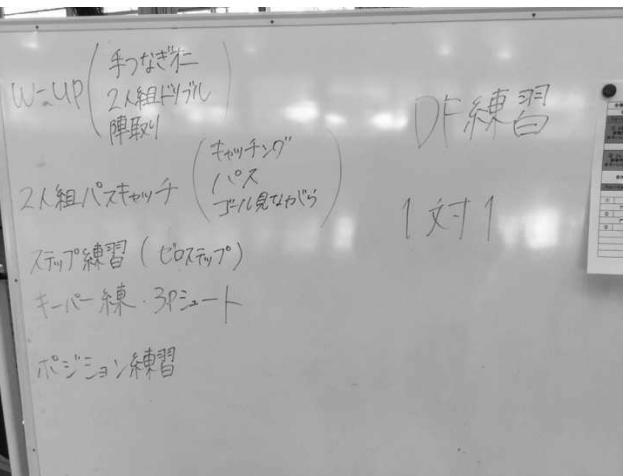
学生スタッフ 9 名



スローイングの指導の様子



ゴールキーパーへの指導の様子



学生が考えた講習会の内容



参加者と学生スタッフとの集合写真

天白区区民祭り

1. 目的・概要

天白区内の様々な団体の活動の紹介や、区民同士の交流を通して、区民主体の地域づくりに繋げてゆくことを目的として毎年開催されている。運営は天白区民が中心となり実行委員会方式によっている。

参加団体の区分は、各種団体、企業、公署、大学、高校となっている。参加形態は、模擬店と啓発ブースに分かれ、本学からは、教育学部と健康栄養学部が啓発ブースで参加した。ここでは、健康栄養学部の内容を報告する。

参加の目的は、学生が主体となって地域住民の方々との交流を計り、大学で学んでいることを分かりやすい形で発信する実習の場とすることである。ブースで取り上げた啓発アイテムとしては、「骨密度測定」、そして学生考案による大人向け「食べ物クイズ」、子供向け「野菜当てクイズ」の3点である。多くの子どもから高齢者まで幅広い年代層にお目当てのコーナー参加いただくことができた。骨密度測定には約160名、2つのクイズには延べ500名もの方の利用があった。

協定書：有り

委託金：無し

2. 担当部局

【東海学園大学健康栄養学部ブース】

<<食育：「骨密度測定」/大人向け「食べ物クイズ」/子供向け「野菜当てクイズ」>>

中出美代 東海学園大学健康栄養学部・教授

糸 晃智 東海学園大学健康栄養学部・准教授

尾崎浩平 東海学園大学健康栄養学部・助手

鈴木令佳 東海学園大学健康栄養学部・助手

学生

健康栄養学部学生 15名

3. 所見・成果

平成30年10月28日(日)、朝から申し分ない天候に恵まれ、平成30年度天白区区民祭りが天白公園で開催された。健康栄養学部は、天白区役所との協定書に基づき2年生7名、3年生8名の計15名と教員4名が参加し、対応に当たった。

骨密度は、特に中高年の方には関心が高く、並んで順番を待つて頂く光景が続いた。担当した学生は、測定結果を渡すとき簡単なコメントも添えて参加者とコミュニケーションを図った。

大人向け「食べ物クイズ」、子供向け「野菜当てクイズ」も多くの方に興味を持って参加いただいた。中には、お母さんと一緒に大人向けの「食べ物クイズ」にチャレンジしたり、大人顔負けの正解率を達成したちびっ子もいて、身近な疑問を参加者と学生が一緒になって考え、解決する場を提供できた。

学生にとっては、大学で学んだことを子どもからお年寄りまでコミュニケーションを取りながら実践できたことは、貴重な、そして、今後の学習意欲向上にも繋がった経験であったと考えられる。



名古屋市農業センターまつり「健康・野菜イベント」

1. 目的・概要

本学と名古屋市農業センター（以下、農業センター）は、平成28年4月に地産地消や健康づくりに関する連携協定を締結しており、農業センターで開催される様々なイベントへの協力をしている。今回、その一環として、平成30年11月3日（土・祝）～4日（日）に開催された農業センターまつりにおいて、健康栄養学部の学生が「健康・野菜イベント」を実施した。本イベントの目的は、地域住民の方々の健康意識向上への貢献と学生への健康教育実践の場の提供である。農業センター農業指導館の講習室で「骨密度測定と足指筋力測定」、「野菜スタンプでしおり作り」、「野菜クイズと食育紙芝居の上演」の3つの催し物を行った。（協定書有り・委託金無し）

2. 担当部局

健康栄養学部

<担当>

教員 長幡 友実 東海学園大学健康栄養学部 准教授

高柳 尚貴 東海学園大学健康栄養学部 講師

学生 長幡ゼミ 3年生 7名

高柳ゼミ 3年生

スポーツ栄養研究サークル] 7名

食育研究サークル 7名

（すべて健康栄養学部学生、合計21名）



本イベントに参加した学生達



イベントのチラシ

3. 所見・成果

本イベントでは、「骨密度測定と足指筋力測定」、「野菜スタンプでしおり作り」、「野菜クイズと食育紙芝居の上演」の3つの催し物を行った。どれも、日頃大学で学んでいる知識を、実際に地域の方々に伝えるとともに良い機会になったと考えられる。以下に個々の詳細を記す。

1) 骨密度測定と足指筋力測定

スポーツ栄養研究サークルと高柳ゼミ3年生の計7名が合同で行った。約100名の来場者に対し、

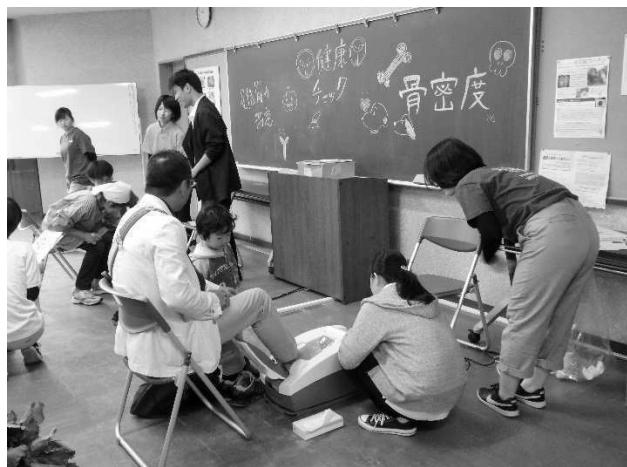
骨密度と足指筋力の測定を行い、個々に測定結果の説明と食生活上のアドバイスをさせていただいた。参加された地域住民の方々からは、骨を強くするためには何を食べたら良いか、骨密度を低下させないために気をつけることは何か、等の様々な質問をいただき、学生にとっても勉強不足を痛感する良い機会となったようである。

2) 野菜スタンプでしおり作り

長幡ゼミ 3年生 7名が行った。来場した子どもに、あらかじめ準備しておいた生野菜スタンプを用紙に押してしおりを作ってもらった。用意した野菜は、ピーマン、レンコン、さつまいも、にんじん等であり、学生は、来場した子ども達に野菜の特徴を話しながら、しおり作りをしてもらった。子ども約 90 名、保護者約 60 名の参加があり、保護者には家庭での子どもの野菜摂取状況を調査させていただいた。子どもや保護者と関わる大変貴重な体験をしたと考えられる。

3) 野菜クイズと食育紙芝居の上演

食育研究サークル 7名が行った。2018 年度に名古屋市農業センターと共同で製作した食育紙芝居「牛乳を飲もう」の上演を 2 回行い、子ども約 50 名、保護者約 30 名の参加があった。紙芝居上演時間以外は、来場者に野菜に関するクイズを行った。子ども約 60 名、保護者約 40 名の参加があった。食育研究サークルには、将来栄養教諭を目指す学生が多く所属しており、子どもと接する貴重な体験をすることができたと考えられる。



骨密度測定と足指筋力測定



野菜スタンプでしおり作り



野菜クイズ



農業センターと共同制作した食育紙芝居の上演

「第6回浄土宗宗門関係大学社会連携企画シンポジウム」への参加

1. 目的・概要

浄土宗と宗門関係大学は毎年、東西2ブロックに分かれて「社会連携企画シンポジウム」を開催している。本学は「西部ブロック」に所属し、京都の佛教大学、京都華頂大学・華頂短期大学、京都文教大学・京都文教短期大学と共に、会場を持ち回りで担当しながらシンポジウムを共催し、地域・社会に貢献する活動を相互に紹介・報告している。協定書および委託金はない。

第6回にあたる平成30年度は、数回の打ち合わせ会議を経た上で、佛教大学にて平成30年12月15日（土）13:30よりシンポジウムを開催した。参加者は、大学関係者（学生・教職員）と一般来場者を合わせて120～130名程度であった。

第6回 浄土宗宗門関係大学社会連携企画シンポジウム
ともいき
共生 ~新たにつなぐご縁~

【プログラム】

- 13:00 受付開始
- 総合司会: コーディネーター
佛教大学社会学部現代社会学科教授 大谷 栄一
- 13:30～13:35 開会の挨拶・趣旨説明
- 13:35～14:35 講演 松島 靖朗

【子どもの貧困～おてらおやつクラブの活動の現場から～】

大阪府尼崎市事件に衝撃を受けたことから、自効で始めた「おてらおやつクラブ」。お子の「おそれなえ」を、「仮さまがいる」「おさがり」として震災後、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」をするこの活動は、980ヶ月間が参加する（2018年1月現在）非営利活動法人となった。今日にいたるまでの想いや、様々な葛藤を乗り越えて信頼になる決断をした道のりなどを語ります。

【アフターレポート】

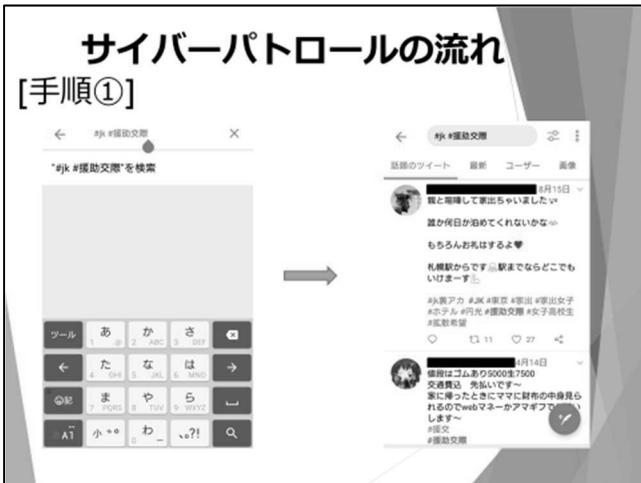
有島教部課長(新井善也監修)、松尾宣利副総務課長(まつおひづけくわい)による報告書
1975年生まれ。トヨタ商社や滋賀県立大学等勤務。14歳の東京半蔵の後、井戸の本家である自らの母の30年後、尼崎市立小学校で就学。尼崎市立小学校、尼崎市立中学校、尼崎市立高等学校卒業。2014年7月に元おやつクラブ代表、国内で認定され導入団体のため、NPO法人を立ち上げた。尼崎市立小学校の社会科教科担任として全国初級会議の活動を指導。2017年6月に特定非営利活動法人化。浄土宗は有資、無我人情文化振興、奈良七真、ローリー運動普及、2018年度グッドデザイン賞受賞。

【アクセス】

【お問い合わせ】 佛教大学 研究推進部 社会連携課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ町96 Tel 075(493)9002(直)

当日は、開会の挨拶・趣旨説明の後、松島靖朗氏が「子どもの貧困～おてらおやつクラブの活動の現場から～」という講演を1時間ほど行った。短い休憩の後、14時45分頃より、各大学がそれぞれの取り組みについて10分程度の報告を行った。再度休憩をはさみ、15時40分より、講演者と参加大学の学生によるディスカッションが1時間ほど行われ、16時35分頃に閉会となった。その後、40分ほど懇親交流会が行われた。

なお今年度は、本学の取り組みとして、三好キャンパスの学生防犯団体「TOPS」の活動、中でも「地元警察署と連携したサイバーセキュリティ」にスポットを当てて報告した。それに伴い、豊田署から表彰を受けた「TOPS」メンバーの中より、4名の学生を選出して派遣した。



2. 担当部局

共生文化研究所

学生 学生防犯団体「TOPS」4名

3. 所見・成果

「TOPS」の発表は大変好評であり、全体のディスカッション終了後も、学生や先生方などから多くの質問をいただいた。他大学の発表も充実した内容であり、本年度の新たな試みとして行われた第一部の講演も、社会的な関心を集めている「おてらおやつクラブ」について、聴衆は熱心に聞き入っていた。

残念な点は、例年のことながら、主催者である浄土宗関係者（特に地元の寺院関係者）の参加がほとんど見られなかったことである。



健康栄養プラザ 本コース 平成30年度の取り組みについて

1. 目的・概要

健康栄養プラザは、本学の建学の理念に則り、次の目的のために活動している。

(1) 食と健康に対する正しい情報を発信して地域住民の健康増進に役立つことにより、地域社会へ貢献し、社会に開かれた大学をめざしている。(2) 本学管理栄養士養成課程の実践教育並びに実践的研究活動の場としている。

また健康栄養プラザは、前条の目的を達成するために市民を対象として次の事業を行っている。

(1) 食と健康に関する啓発活動 (2) 栄養指導・栄養相談 (3) その他、プラザの目的を達成するために必要と認めた事業である。

平成30年度 本コース講座は、下記の行事を実施致した。

第一回 “健康を守る糖質の摂り方” (4月21日実施、参加者34名)

第二回 “噛む・飲み込むが苦手な方の食事” (5月19日実施、参加者28名)

第三回 “転ぶ前、転ぶときに気を付けること～転んだ後に後悔しないために～” (6月30日実施、参加者50名、学生110名)

第四回 “もっと仲良く！知って得する野菜料理～1日350gの野菜料理を目指す献立～” (10月13日実施、参加者30名)

第五回 “そば打ちを楽しむ～季節ならではの新そばの風味を味わう～” (11月17日実施、参加者30名)

第六回 “一から学ぼうビタミンのはなし” (12月15日実施、参加者30名)

開催場所：東海学園大学 名古屋キャンパス4号館1階調理実習室及びマナー室

協定書・委託金無

2. 担当部局

<運営担当> (健康栄養プラザ担当)

堀尾拓之、古橋啓子、神戸絹代、小池亜紀子、高柳尚貴、安藤恵、尾崎浩平（東海学園大学教員、助手）

<講師・実習担当>

第一回目：堀尾拓之（本学教員）、第二回目：徳永佐枝子（本学教員）、第三回目：小池亜紀子（本学教員）、紙谷武（医師）、第四回目：長幡友実（本学教員）、第五回目：加藤雅巳（管理栄養士）、第六回：白石則之（本学教員）、石原美由紀（管理栄養士）（各回学生ボランティア6名配置）

3. 所見・成果

健康栄養プラザでは、食生活・栄養・運動と健康に関する講義や実習を通して、地域にお住まいのお一人おひとりの健康増進を目指して活動している。各回健康栄養学部教員とボランティア学生6名にて講義と実習を行っている。

第一回 “健康を守る糖質の摂り方” では、昨今の低糖質ダイエットの功罪の話や大麦を使った調理実習（“麦ごはんリゾット、押し麦・大豆と白菜の豆乳スープ、大麦ハンバーグ、海藻ミックスの梅味サラダ”）を作成した。

第二回 “噛む・飲み込むが苦手な方の食事” では、摂食機能障害や嚥下調整食などについての講義の後、“やわらか味噌かつ、ゼラチンごはん、ほうれん草の白和え、長芋もちのお吸い物、二色ゼリー”を作成した。

第三回 “転ぶ前、転ぶときに気を付けること～転んだ後に後悔しないために～” では、「骨を強くす

る食生活」についての講義と「転ばない身体と転んでもケガをしない対処方法」の講義をした。

第四回 “もっと仲良く！知って得する野菜料理～1日 350g の野菜料理を目指す献立～”では、野菜の栄養素や摂取状況について講義と野菜摂取量が少ない愛知県民の野菜摂取量を向上させるために9月に行われた“あいちサラダめし 大学生レシピコンテスト”にて本学徳永ゼミの3年生が審査員特別賞を受賞した“Vege フル Pizza”と“かぼちゃプリン”を作成した。

第五回 “そば打ちを楽しむ～季節ならではの新そばの風味を味わう～”では、名古屋そば打ちクラブのメンバーがデモンストレーションを行い、その後、打ち立てのそばの作成、試食を行った。

第六回 “一から学ぼうビタミンのはなし”では、様々なビタミンの特徴や作用の講義と“ビタミンたっぷり健康レシピ”をテーマに”れんこんボール、プロッコリーのカニあんかけ、ごまけんちん”を作成した。

毎回募集をかけるとすぐに定員を超えるくらいの人気の企画である。参加者は地域の中高年の方々であるが、皆熱心にメモを取るなどしている。さらに毎回6名の学生ボランティアの参加を求めており、調理準備、講師助手、調理中の補助、後片付けなどの講座を円滑に運営するために貢献している。学生も地域の方々と活動することで、管理栄養士に必要なスキルを得る大切な機会となっている。



第一回 “健康を守る糖質の摂り方”（4月21日実施）参加者と学生が一緒にになって調理実習を行いました。



第五回 “そば打ちを楽しむ～季節ならではの新そばの風味を味わう～”（11月17日実施）プロのそば打ちを指導していただきながら、参加者と一緒に学生もそば打ちを行いました。

名古屋土曜学習プログラム

1. 目的・概要

名古屋市教育委員会主催の「名古屋土曜学習プログラム」は、小学生を対象とした教育活動推進事業であり、体験型の課外学習講座の運営に、大学・地域・民間事業者が協力し、子ども達にとって豊かで有意義な土曜日を実現していくことを目的としている。

平成 26 年度 3 校でモデル実施、現在では名古屋市内全 16 区 26 小学校で、それぞれ年間 7 回土曜日の午前中に実施されている。本学は 30 年度から名古屋市との委託事業として参画。

スポーツ健康科学部井澤悠樹講師による「ニュースポーツ体験学習」は、5 月 19 日に天白区の植田南小学校、6 月 23 日に天白区の野並小学校、7 月 14 日に中村区の岩塚小学校で実施。体育やスポーツの得手不得手、好き嫌いに関係なく楽しめるニュースポーツを体験学習した。各回、それぞれ 19 名、18 名、18 名の井澤ゼミ生が参加し、種目の説明や指導をした。

教育学部小島雅生准教授による「造形表現体験学習」は、11 月 17 日に北区の清水小学校、11 月 24 日に天白区の植田南小学校で実施。枝にひも等を巻きつけ立体作品を制作し、造形活動を通じアートに生まれ変わることを体験学習した。それぞれ 4 名、5 名の小島ゼミ生が参加し、大きな枝を切ったり毛糸の巻きつけ方などを指導したりした。

参加した小学生はもちろんのこと、学生たちにとっても日頃のゼミでの学びを活かし、貴重な実践活動の場となった。

委託仕様書・委託料：有

「ニュースポーツ体験学習」（ラダーゲッター、ディスゲッター、シャフルボードなど）



「造形表現体験学習」



2. 担当部局

井澤悠樹 東海学園大学スポーツ健康科学部講師

小島雅生 東海学園大学教育学部准教授

学生延べ 64 名

地域連携推進室

3. 所見・成果

教員免許取得可能な学部を擁する大学として、名古屋市教育委員会の趣旨に賛同し、参画することにし、井澤先生・小島先生に協力を依頼した。

対象が小学校1年生から6年生と幅広く、また場所は体育館と制限も多い中での2時間の体験学習は内容設定や進行が難しかったと思われる。3週間ほども前の参加募集締め切り後に初めて人数や学年等が判明することもあり、準備時間を充分にとることができなかつた。

そのような状況で、担当教員がゼミを通して学生を指導し、学生の自主性にも期待し、実践活動の貴重な場となったことは有意義だった。

また、名古屋キャンパスが位置する天白区の植田南小学校で、「東海学園大学を知っていますか?」の問いに、全員大きな声で「はい!」と応えてくれたのには参加の学生たちも思わず笑顔になった。

この土曜学習プログラムには、土曜学習いきいきサポーター制度があり、本学学生の登録者は現状ではいないが、登録し他の様々な講座にいきいきサポーターとして参加すれば名古屋市教員採用試験時に一部加点もある。実践活動となることに加えて、講師や他大学の学生とのコミュニケーションを図れる活動でもあり、本学学生の積極的参加が望まれる。

【 経営学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
1	【みよし市との包括協定】名古屋グランパスエイトとの名鉄三好ヶ丘駅におけるJ1成績情報ボードの設置・運営	グランパスとゼミで名鉄三好ヶ丘駅におけるJ1成績情報ボードの設置・運営を開始した。Jリーグ中断期間中は試合結果以外のクラブや選手に関する種々の情報を掲示した。	2018.4.1～2019.3.31	みよし市教育委員会、名古屋グランパスエイトクラブハウス、名鉄三好ヶ丘駅、三好キャンパス	(16)	共催
2	【みよし市との包括協定】夢たまご社とのみよし市における新名物お菓子の開発	みよし市の鶏卵業者「夢たまご」様と同社の卵を使った新しいみよし市の名産品となる菓子を共同開発している。最終的にはみよし市のふるさと納税における返礼品に採択いただけるように商品をまとめている。学生によるみよし市役所へのプレゼンテーションをゴールに設定して社会の様々なステークホルダーとの調整や現実の商品づくりの困難について体感した。	2018.4.1～2019.3.31	夢たまご社、みよし市役所産業課、三好キャンパス	(16)	共催
3	企業との連携による課題解決活動	有限会社アーティストリーが事業として行っているディスプレイ業界用の家具製造・販売事業について、現状のビジネスモデルを企業と一緒に整理した。さらに、学生の考えた新モデルを経営者、および関係者へ提案・発表した。	2018.4.12～7.18 発表日 2018.7.18	有限会社アーティストリー	(14)	主催
4	IoT段ボールカーの製作と工作イベントの実施	豊通ニューパック株式会社と連携して段ボールを用いた工作用自動車の設計製作に取り組んだ。完成した工作キットはIoT機器を搭載した遠隔操作できる段ボールカーとして工作イベントで利用した。	製作打合せ期間 2018.5.3～7.12 イベント 2018.7.15 2018.8.18	打合せ： 豊通ニューパック イベント： 三好キャンパス	(3)	主催
5	かがやけ☆あいちサステナ研究所	40名の大学生が研究員として企業・団体10社に派遣され、企業・団体から提示された環境に関する研究課題に取り組む。本学の学生がIKEAチームと積水ハウスチームに所属して活動し、成果発表を行った。	活動期間： 2018.6.10～ 2018.12下旬 成果発表： 2018.12.2	研究活動：愛知県東大手庁舎、各企業、成果発表：名古屋市立大学	40(2)	参加
6	根羽村創生プロジェクト(Neba-Mura “Never Give Up Project”) Part1	根羽村1日観光ルートMAPを作成した。また、MAPによる観光ガイド説明と地域の野菜を無料で配布する活動をオープンキャンパスで行った。	和文と英文のMAP作成 2018.6.14 観光ガイド説明と無料配布 2018.7.15	三好キャンパス	(14)	主催
7	豊田市百年草との連携活動	豊田市足助町にある百年草における宿泊客向けイベントを考案し、実施した。3チームに分かれ、星空観察と鮎つかみ、たんころりん作り、オリジナルハンバーガー作りを行った。	2018.8.9～12	豊田市百年草	(13)	主催
8	大垣市地域活性化イベント	2019年秋開催予定の地域活性化イベントを企画するための現地調査(これまで開催されていたイベントの体験、地元名産の試食、地域の人々との交流など)を行った。	2019.2.8～2019.2.9	岐阜県大垣市上石津地域	30(18)	共催

【人文学部】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
1	【みよし市との包括協定】 コミュニティFM エフエムとよた 「みよしコミュニティーニュース」	エフエムとよたの番組「モミアゲラジオ」(毎週土曜日午後3:00~6:00放送)内で「みよしコミュニティニュース」(放送時間午後3:50~4:00)のコーナーを武市ゼミの3,4年生が担当。学生が市内イベントをインタビュー取材し、レポーターとして地域情報を発信する。2013年11月末より。(2013年11月29日・2016年4月11日付新聞記事あり)	毎週土曜日	みよし市カリヨンハウス	武市ゼミ (春20,秋25)	共催
2	犬山市立図書館古典籍調査	犬山市立図書館の古典籍を、4月27日人文学部教員の大橋・松尾・村主及びそのゼミ学生14名で予備調査し、以後毎回1~2名の有志学生を伴って3回の調査を行い、目録編纂用のデータをとった。 5月22日に、専門演習の授業の一環として、学生15名、教員3名で犬山市立図書館に行き、同館の所蔵する古典籍資料について調査を行った。 その後、8月4日、9月15日に学生それぞれ1名を引率し、継続調査を行った。	2018.4.27 2018.5.22 2018.7.17 2018.8.4 2018.8.16 2018.9.15 2019.3.13	犬山市立図書館	(延20)	主催
3	公開授業「スカベンジャーント／『司書のお仕事』公開記念トークセッション」	名古屋キャンパス図書館、および311教室で、一般公開の授業を実施した。前半のスカベンジャーントには学生16名、一般5名、後半のトークセッションには学生1名が司会にあたり、一般5名の参加があった。	2018.7.21	名古屋キャンパス	(16)	主催
4	【天白区との包括協定】 天白カルタプロジェクト	天白区役所企画経理室の協力のもと、天白区の魅力を写真と言葉で伝えるフォトかるたを武市ゼミの3年生が制作し、天白区役所にて2019年1月21~25日に展示した。	2019.1.21~25	天白区役所	(11)	共催

【 教育学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	玉ねぎ取り	近隣のあおぞら保育園より、園児32名及び保育士3名が来学し、本学3年生12名及び教員3名と一緒に、玉ねぎを収穫した。 担当:横井一之	2018.5.22	名古屋キャンパス 畠	子32、 保育士 3名、 教員3 (12)	
2	碧南市藤井達吉現代美術館 夏休みワークショップ 「枝とひものまきまき造形」	小学生対象の造形ワークショップ。枝とひもをつかった造形。午前中は個人作品制作。午後からは共同制作による空間表現。ボランティア学生3名参加。講師:小島雅生	2018.8.1	碧南市藤井達吉現代美術館	小学生 15 (3)	協力
3	碧南市藤井達吉現代美術館 親子ワークショップ 「親子でまきまき造形あそび」	3~6歳の幼児とその保護者対象の造形ワークショップ。枝とひもをつかった造形。ボランティア学生3名参加。 講師:小島雅生	2018.8.2	碧南市藤井達吉現代美術館	親子4 組11 (3)	協力
4	学びとふれあい子ども教室 (サマースクール)事業 ものづくり活動	夏休みに自主的に学習しようという意欲を持った子どもたちの活動を支援するのが目的。豊川市立萩小学校3~6年生対象に、ものづくり教室を開講。ボランティア学生1名参加。 講師:小島雅生	2018.8.3	豊川市立萩小学校	小学生 31 (1)	協力
5	朝日村造形ワークショップ 造形ワークショップ「朝日の自然から生まれる枝と糸のまきまきアート」	朝日村で枝素材を収集し、朝日村中央公民館で、朝日村の子どもと大人65名と本学生10名で造形ワークショップを実施。 講師:小島雅生	2018.8.7	長野県朝日村 中央公民館(学外)	朝日村 の方々 65 (10)	共催
6	名古屋城バディウォーク	イベント活動を通してダウン症の子供たちとふれあいながら、その支援について理解する。	2018.10.28	名古屋城二之丸広場	約4000 (7)	ボランティア
7	名古屋土曜学習プログラム 「造形表現体験学習」	自然素材である「枝」に、様々なひもを巻きつけ立体作品を制作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通し、アートという表現に生まれかわることを体験した。 講師:小島雅生	2018.11.17 2018.11.24	清水小学校 植田南小学校	44(4) 77(5)	委託
8	第50回岡崎マラソン	岡崎マラソンの救護を担当する。コース上およびフィニッシュエリアでAEDを持参して待機し、傷病者の応急救護を医師の指示のもと実施した。 心肺停止事案もなく、熱中症、外傷等の傷病者対応であった。 岡崎市民病院救命センターの医師看護師、岡崎消防本部の救急隊員と活動した。	2018.11.25	岡崎中央総合公園	約5000 (21)	ボランティア
9	名古屋市天白消防集団災害訓練	学内のエレベータの故障により将棋倒しになり、傷病者が複数発生した際のトリアージ、初期対応に、傷病者役として参加し、集団災害時の傷病者の心理を模擬体験するとともに、学校で集団災害が発した場合の対応について考える。 名城大学事務職員、名城大学災害ボランティア部の部員、天白消防、植田分署、瑞穂消防の救急隊員が参加した。	2018.12.23	名城大学 天白キャンパス	50 (14)	ボランティア

【 教育学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
10	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2019(名古屋ウィメンズマラソン)	名古屋ウィメンズマラソン、名古屋シティマラソン総勢37000人の医療救護におけるメディカルサポートを実施した。 各救護所の受付、気象調査、ロジや情報の記録など救護所が円滑に活動できるよう補助を実施、SCS(セルフコールドスプレーステーション)の運営、医療統括本部での、救命事案発生場所特定作業、各種記録、搬送病院への傷病者の荷物搬送などを実施した。 石田ゼミ3・4年生は事前準備も参加した。	2019.3.10 事前準備: 2019.3.8-9	ナゴヤドーム、白川公園、パロマ瑞穂グランド、マラソンコース沿道	ランナー 42754 3日間 の来場者 130656 (170)	ボランティア

【 スポーツ健康科学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
1	【みよし市との包括協定】 みよし市立黒笹小学校への学校支援ボランティア(水泳授業補助)派遣	水泳授業の補助・指導	2018.6.6～7.19	黒笹小プール	(20)	協力
2	【みよし市との包括協定】 みよし市立北中学校への学校支援ボランティア(水泳授業補助)の派遣	水泳授業の補助・指導	2018.6.29～7.19	北中プール	(14)	協力
3	平成30年度豊田市ハンドボール協会第2回ゴールキーパークリニック	講習会のデモンスト레이ター、運営のお手伝い、講師のスポーツスタッフ	2018.8.18・19	豊田市運動公園体育館	(17)	協力
4	【みよし市との包括協定】 三好特別支援学校小学部体育授業支援 ダンス交流	本学部の教員志望の学生(田中望ゼミ)と三好特別支援学校小学部4年生がリズムダンスやストレッチ体操を通して交流した。教員を目指す学生がプログラムを考案しそれを指導すること、PDCAサイクルにより指導改善を行うことにより、学校教育における指導の実際を実践的に学ぶ場となった。児童にとっては個別指導により、身体を動かすことの楽しさや人と触れ合うことの喜びを味わう機会となった。	2018.9.18 2018.10.23 2018.11.13 2018.12.11 2019.1.15	三好特別支援学校	(13)	協力
5	第14回愛知県ティーボール大会 メディカルサポート	大会運営の補助および大会中に発生したケガに対する応急手当の補助	2018.11.16・17	愛・地球博記念公園(モリコロパーク)	(2)	協力
6	【みよし市との包括協定】 考えてみよう！ワーク・ライフ・バランス～仕事と生活の調和～実現への取り組み	「みよし男女共同参画プランパートナー2014-2018」の基本目標である男女共同参画社会を目指す意識づくりを進めるために、これから社会へ進出する大学生へ男女共同参画意識の啓発と普及を図ることを目的とする。今回は「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)実現に向けて」をテーマに、学生とコメントーターが意見交換を行う。	2018.12.19	三好キャンパス大講義室	(130)	共催
7	【みよし市との包括協定】 三好丘子ども会運動教室	三好丘子ども会の児童・生徒を対象に、オリンピックやパラリンピックへの興味・関心を深めるための運動教室を実施する。本教室は、子ども会の行事のひとつとして行われる。	2018.12.22	三好丘小学校体育館	(6)	協力
8	日本オリンピック・アカデミー 第6回ユースセッションi	高校生が学校教育だけでは得ることのできないオリンピズムの価値に触れる機会として、スポーツや文化的活動等の実践による体験と参加者相互の交流を通じてオリンピックの理念を体感し、知的理解を深めるための合宿型(2泊3日)の高校生向けオリンピック教育	2018.12.25・26・27	中京大学	(11)	協力
9	【みよし市との包括協定】 三好丘子ども会運動教室	三好丘子ども会の児童・生徒を対象に、オリンピックやパラリンピックへの興味・関心を深めるための運動教室を実施する。本教室は、子ども会の行事のひとつとして行われる。	2019.1.26	三好丘小学校体育館	(8)	協力

【 スポーツ健康科学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
10	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2019」ボランティアスタッフ事前研修会	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2018」ボランティアスタッフ事前研修会」として、外部講師を招聘し講義および実技研修会の開催	2019.2.12	三好キャンパス大講義室	(17)	主催
11	2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業 次世代につなぐスポーツ人材育成事業(東海学園大学連携事業)	サッカー競技における県内トップレベルの競技力を有する中学生が、大学施設での専門性の高い講義、測定及び実技講習をとおして、競技力強化に必要な知識や技術を学んだ。 講師：星川佳広、黒須雅弘	2019.2.23	三好キャンパス5号館アーナ、ダンススタジオ、運動生理学実験室	(星川ゼミ10, 陸上競技部2)	協力
12	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2019」ボランティアスタッフ派遣	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2019」への学生ボランティアの派遣 業務内容：出場選手のサポート、運営補助	2019.3.10	ナゴヤドーム、パロマ瑞穂スタジアム	(17)	協力
13	平成30年度豊田市ハンドボール協会チャレンジカップリーグ	小・中・高校生を対象としたハンドボールの講習会の講師	2019.3.28・29	高岡公園体育館	(9)	協力

【 健康栄養学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	どうがく生による「食と元気のチェックラボ」	名古屋市農業センターで開催されたGWフェアに出店した。骨密度測定、子ども向け食育紙芝居の上演、ロコモティブシンドローム(ロコモ)予防教室を行なった。骨密度測定には116名の地域住民の来場があり、測定と個別に結果説明をさせていただき、子ども向け食育紙芝居は計3回公演を行い、延べ77名の親子が聞きにきてくれた。また、ロコモ予防教室では、講義に加え、体力測定と園内ウォーキングを行い、32名の参加があった。	2018.5.6	名古屋市農業センター	31 (26)	協力
2	山崎製パン安城工場見学	私たちが普段口にしている食品が、どのような製造プロセスや技術を経て食卓に届くのか、食品の生産や衛生に関する知識と理解を深めるこを目的として、山崎製パン安城工場の見学を企画し、24名の学生が参加した。当日は、工場見学と開発担当者の方や人事担当の方と学生のディスカッションも行い、新しいパンの開発や食育活動、食品ロスを考える機会、社会人としての心構えや立ち振る舞い、考え方の参考となる貴重な学外研修であった。	2018.5.19	山崎製パン安城工場	26 (24)	学部主催行事
3	地域福祉コミュニティほほえみ「納涼祭」	地域福祉コミュニティほほえみの「納涼祭」に参加し、利用者やボランティアなど参加者の方々に運動機能分析装置ザリップを使用して脚の筋力とバランスを測定し結果説明を行なった。	2018.8.4	訪問看護ほほえみ	4 (2)	協力
4	ナスで簡単おやきづくり (ナスの収穫体験付き)	名古屋市農業センターが開催する食農体験教室の一環として、12組の親子を対象にナスの収穫体験と、収穫したナスを使ったおやき作りを行なった。なお、本イベントは、長幡ゼミの活動の一環として開催したものである。	2018.8.7	名古屋市農業センター	4 (3)	協力
5	管理栄養士と「食べる」を学ぼう -親子食育教室	栄養の日(8月4日)の関連事業として栄養士会が全国で開催するイベントの一環として、名古屋市緑区で親子食育教室を実施(主催:日本栄養士会、緑区栄養士連絡会)。幼児(親子)を対象に、栄養の話と関連したゲーム(学生が製作したすごろく・かるた)遊び、ヨーグルトと果物、野菜を使った料理の説明と試食を行った。	2018.8.19	池上台ハウス(緑区池上台三丁目110-24)	20 (3)	協力
6	【天白区との包括協定】 天白区訪問介護事業者ネットワーク研修会の開催	訪問介護事業ネットワークの職員むけ研修会に協力した。「軽度嚥下障害・嚥下食と高齢者に不足する栄養素」の講義の後、調理実習を行なった。調理実習ではボランティア学生が各班に1名入り、その後試食を行ない、介護の現場の話を聞くことができた。 <講師>古橋啓子准教授(本学健康栄養学部／管理栄養士)	2018.8.23	名古屋キャンパス(4号館1階 調理実習室)	7 (4)	協力

【 健康栄養学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
7	【天白区との包括協定】天白区区民まつり	「平成30年度天白区区民まつり」への出店。天白公園内の1ブースにおいて、健康栄養学部と教育学部合同にて行った。健康栄養学部は、「骨密度測定」や「食育クイズ」等を実施した。	2018.10.28	天白公園	延約500(15)	協力
8	「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」	地元の食材や郷土料理を取り入れながら「アイディア朝ごはん」の献立作りや調理を通して、家族の絆を深めることを目的に、毎年開催される愛知県教育委員会主催のコンテストである。本選に残った小学生10名が当日調理を行い、審査が行われた。本学は共催として会場提供、当日の運営等に協力した。	2018.10.28	名古屋キャンパス(4号館1階および3号館311教室)	40(10)	共催
9	東海学園大学『健康＆野菜イベント』	名古屋市農業センターが11月3日(祝・土)～4日(日)に開催された「農業センターまつり」において、成人向けに健康チェック(骨密度測定、足指筋力測定)、子ども向けに野菜スタンプでしおり作り、野菜クイズ、食育紙芝居の上演を実施した。	2018.11.4	名古屋市農業センター	延200(22)	協力
10	【天白区との包括協定】みんなの元気フェスタinてんぱく	みんなの元気フェスタ実行委員会、天白区地域包括ケア推進会議が主催した「みんなの元気フェスタinてんぱく」に参加し、「高齢者の食と健康の○×クイズ」、「高齢者栄養関係の展示」、「骨密度測定」、「脚の筋力とバランス測定」、「ヘモグロビン測定」、「天白区と名古屋市のマスコットキャラクター着ぐるみ写真撮影会」を行なった。	2018.11.17	天白区役所講堂・天白保健所	411(25)	協力
11	腎臓病の患者様と一緒に『クッキング＆セミナー』	愛知県腎臓病協議会 名古屋本部主催『クッキング＆セミナー』を名古屋キャンパス調理実習室で開催。「おいしく健康的に食べよう腎臓食」の講演と調理実習ならびに健康栄養学部3年生が「腎臓病で制限が必要なカリウムは、どの種類のケーキに一番多い？」をクイズも交えて栄養教育を実施。	2018.12.16	名古屋キャンパス(4号館1階 調理実習室)	45(4)	協力
12	名給フードネットワーク2019	株式会社名給開催の総合展示会において「大学生コラボ」コーナーにて展示、試食を行った。	2019.3.13	名古屋国際会議場	延1000(10)	協力

【 図書館 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	図書館開放	①天白区民対象(名古屋図書館) ②みよし市民対象(三好図書館) ③公開講座受講生対象(両図書館) ④三好ともいきスポーツクラブ(三好図書館) ⑤在学生の保護者(両図書館) ⑥近隣の中学校・高校生(両図書館)	2018.4.1～ 2019.3.31	東海学園大学 図書館	①75 ②22 ③ 三〇 名10 ④2 ⑤2 ⑥5	主催

【共生文化研究所】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
1	「第6回浄土宗宗門関係大学社会連携企画シンポジウム」への参加	①松島靖朗氏による講演「子どもの貧困～おてらおやつクラブの活動の現場から～」②東海学園大学および京都華頂大学・華頂短期大学、京都文教大学・京都文教短期大学、佛教大学における地域連携の取組の紹介③講演者と参加大学の学生によるディスカッション④懇親交流会	2018.12.15	佛教大学	(4)	協力

【 健康開発支援センター 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
1	名古屋健康運動俱楽部	内容:中高齢者への運動指導 講師:野口真希(東郷町施設サービス株式会社)	2018.4~2019.3 毎週金曜日 1部 9:10~ 10:10 2部 10:30~ 11:30	名古屋キャンパス	延 1510	主催
2	【大桑村との委託契約】 地域住民のための健康講座「まめ習慣講座」	ポールウォーキング、コーディネーション運動、スロー筋トレ 講師:①③④⑥島岡清(健康開発支援センター長) ②⑤梶岡多恵子(教育学部教授)	①2018.5.25 ②2018.6.29 ③2018.7.20 ④2018.9.28 ⑤2018.10.5 ⑥2018.11.9 全6回	長野県木曽郡 大桑村村民体育館	延69	委託
3	【天白区との包括協定】 「天白健康づくり隊勉強会」	健康づくりボランティア育成のための研修講座	2018.6.14 2019.1.10	井口公園 天白区役所	延30	協力
4	【名古屋市委託事業】 なごや健康カレッジ「健康學ノススメ2018」	中高齢者向け介護予防運動講座 講師:島岡清(健康開発支援センター長) 梶岡多恵子(教育学部教授) 丸山裕司(スポーツ健康科学部准教授) 齊藤満(豊田工業大学名誉教授) 天白保健所	2018.9.27~ 12.20 毎週木曜 9:45~11:15 全13回	名古屋キャンパス 天白公園	34 (6)	委託
5	運動指導のための科学的基礎 2018	運動指導者向け研修講座 講師:大塚隆信(教育学部教授) 梶岡多恵子(教育学部教授) 紙谷武(整形外科医師)	2018.12.1	三好キャンパス	48 (13)	主催

【 健康栄養プラザ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	健康を守る糖質のとり方	<p>糖尿病予防と今回のテーマにある糖質、調理実習に使用する大麦についての講義を行った。糖尿病を予防するには適度な運動が大切であることや、大麦に豊富に含まれる水溶性食物繊維のβ-グルカンは食後血糖値の上昇を抑える機能があることを学んだ。さらに大麦は高コレステロールを改善し、食欲を抑えられる食品として注目されていることの説明があった。受講者の方々に笑いが起きる和やかな雰囲気の中、みなさん熱心に講義を受講していた。</p> <p>調理内容の説明後、各班に分かれ調理実習を行った。今回の献立は“麦ごはんリゾット、押し麦・大豆と白菜の豆乳スープ、大麦ハンバーグ、海藻ミックスの梅味サラダ”的4品であった。皆さん手際が良く、協力し合いながら料理が完成した。どの料理も大変おいしく大好評であった。</p> <p>＜講師＞堀尾拓之教授(本学健康栄養学部／管理栄養士)</p>	2018.4.21	名古屋キャンパス (4号館1階 調理実習室)	34 (7)	主催
2	噛む・飲み込むが苦手な人の食事	<p>摂食機能障害や嚥下調整食などについての講義を行った。摂食機能障害になると誤嚥だけでなく、低栄養や脱水などももたらすことを学んだ。また嚥下調整食作りのポイントを料理の種類別に説明した。さらにとろみ調整食品の利用法について、実演した。咀嚼力をチェックできるガムを使って噛む力を確認する実習もあり、受講者の方々は楽しそうに参加していた。</p> <p>調理内容の説明後、各班に分かれ調理実習を行った。今回の献立は“やわらか味噌かつ、ゼラチンごはん、ほうれん草の白和え、長芋もちのお吸い物、二色ゼリー”的5品であった。皆さん協力し合って料理が完成しました。どの料理も大変おいしく大好評であった。</p> <p>＜講師＞徳永佐枝子准教授(本学健康栄養学部／管理栄養士)</p>	2018.5.19	名古屋キャンパス (4号館1階 調理実習室)	28 (7)	主催

【 健康栄養プラザ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
3	転倒とケガを防ぐ／強い骨を作る	<p>「骨を強くる食生活」についての小池先生による講義を行った。骨粗鬆症とその予防方法の説明があった。カルシウムと一緒にビタミンDを摂取するとカルシウムの吸収率が向上することを学んだ。</p> <p>つぎに、紙谷先生に「転ばない身体と転んでもケガをしない対処方法」について講義していただいた。紙谷先生は柔道のオリンピックチームのスポーツドクターであるため、柔道の技を取り入れた高齢者の方でも実践できる転倒を予防する運動や、もし転倒した場合の対処方法を教えていただいた。さらに、受講者の方々と学生が一緒にスクワット運動などを行い、皆さん楽しそうに参加されていた。質疑応答の時間では受講者の方々が熱心に先生に質問していた。</p> <p>最後に、小池先生と学生が調理した骨粗鬆症予防に必要なカルシウムとビタミンD、ビタミンKが豊富な軽食を試食した。メニューは“鮭缶ピラフ、おからサラダ、ごま酢和え”の3品であった。皆さん美味しそうに召し上がっていった。</p> <p><講師>紙谷武氏(JCHO東京メディカルセンター／整形外科医) 小池亜紀子准教授(本学健康栄養学部／管理栄養士)</p>	2018.6.30	名古屋キャンパス (3号館3階 311教室)	110 (学生 含む)	主催
4	手作りうどんを楽しもう	天白児童館との共同企画。夏休みの小学生を対象とし手打ちうどんを調理を行った。また本学栄養教諭履修学生による食育シアターを行った。	2018.8.3	天白児童館	15 (8)	共催
5	もっと仲良く！知って得する野菜料理	<p>実習：もっと仲良く！知って得する野菜料理～1日350gの野菜料理を目指す献立～。</p> <p><講師>長幡友実准教授(本学健康栄養学部／管理栄養士)</p> <p>野菜の摂取量や摂取状況の講義を開催。愛知県は摂取率が低いことから、手軽に野菜を摂取できる調理実習を行った。献立は9月に行われた、“あいちサラダめし 大学生レシピコンテスト”にて本学徳永ゼミの3年生が審査員特別賞を受賞した“Vege フル Pizza”と“かぼちゃプリン”でした。学生からのレシピ説明もしていただきました。</p>	2018.10.13	名古屋キャンパス (4号館1階 調理実習室)	30 (6)	主催
6	そば打ちを楽しむ	実習：季節ばらではの新そばの風味を味わうを実施した。	2018.11.17	名古屋キャンパス (4号館1階 調理実習室)	30 (6)	主催

【 健康栄養プラザ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
7	一から学ぼうビタミンのはなし	実習:一から学ぼうビタミンのはなしをテーマに実習を行った。<講師>白石則之教授(本学健康栄養学部)・管理栄養士石原美由紀先生:白石先生よりビタミンには色々な種類があること、その特性に合わせた調理方法の大切さか欠乏症・過剰症の講義があった。講義後は管理栄養士の石原美由紀先生から「れんこんボール」「ブロッコリーのカニあんかけ」「ごまけんちん」の調理実習を行った。	2018.12.15	名古屋キャンパス (4号館1階 調理実習室)	30 (6)	主催

【 地域連携推進室 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	【天白区との包括協定】 子ども支援	名古屋市立原小学校トワイライスクール参加学生を大学でとりまとめ活動支援	放課後毎日実施に随時参加	名古屋市立原小学校	(延82)	協力
2		名古屋市天白区の原学区・平針南学区で学習環境困難な小学生の学習サポート。参加学生を大学でとりまとめ活動支援	毎週土曜 午前中	各コミュニティセンター	(延 原118 平針南 68)	協力
3	【天白区との包括協定】 公開講座(天白生涯学習センター連携講座) 歌舞伎入門(2018春)	内容:歌舞伎のイロハ 講師:安田文吉(人文学部特任教授) 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)	2018.4.11～ 5.16 毎週水曜日 10:40～12:10 全5回	名古屋キャンパス	21	連携
4	公開講座 江戸歌舞伎(2018春)	内容:歌舞伎作品研究－御園座柿落上演作品と六歌仙 講師:安田文吉(人文学部特任教授) 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授) 早川由美(愛知淑徳大学非常勤講師)	2018.4.11～7.4 毎週水曜日 18:30～20:00 全12回	栄サテライトキャンパス	33	主催
5	土曜学習プログラム 「ニュースポーツ体験学習」	名古屋市教育委員会主催による名古屋市内の小学校体育館で実施の体験学習 指導:井澤悠樹(スポーツ健康科学部講師)、井澤ゼミ生	①2018.5.19 ②2018.6.23 ③2018.7.14	①植田南小学校 ②野並小学校 ③岩塚小学校	①79 ②73 ③94 (30)	協力
6	【大桑村との委託契約】 地域住民のための健康講座「まめ習慣講座」	ポールウォーキング、コーディネーション運動、ストレートトレーニング 講師:①③④⑥島岡清(健康開発支援センター長) ②⑤梶岡多恵子(教育学部教授)	①2018.5.25 ②2018.6.29 ③2018.7.20 ④2018.9.28 ⑤2018.10.5 ⑥2018.11.9 全6回	長野県木曽郡 大桑村村民体育館	延69	委託
7	公開講座 オペラの魅力(2018春)	内容:毎回異なるオペラの演目を中心 に解説 講師:大須賀闘雄(オペラ演出家)	2018.6.2～7.21 土曜日 13:00～15:00 全5回	栄サテライトキャンパス	31	主催
8	公開講座 「江戸歌舞伎(2018秋)」	今年の顔見世作品と舞踊名品研究についての講座 講師:安田文吉(人文学部特任教授) 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授) 早川由美(愛知淑徳大学非常勤講師)	2018.9.12～ 12.19 毎週水曜 18:30～20:00 全12回	栄サテライトキャンパス 901教室	延253	主催
9	公開講座 「オペラの魅力(2018秋)」	毎回異なるオペラの演目を中心 に解説する講座 講師:大須賀闘雄(オペラ演出家)	2018.9.15～ 11.10 毎週土曜 13:00～15:00 全5回	栄サテライトキャンパス 901教室	延68	主催
10	【名古屋市委託事業】 なごや健康カレッジ「健康學ノススメ2018」	中高齢者向け介護予防運動講座 講師:島岡清(健康開発支援センター長) 梶岡多恵子(教育学部教授) 丸山裕司(スポーツ健康科学部准教授) 齊藤満(豊田工業大学名誉教授) 天白保健所	2018.9.27～ 12.20 毎週木曜 9:45～11:15 全13回	名古屋キャンパス 天白公園	34 (6)	委託
11	【天白区との包括協定】 公開講座(共催:天白生涯学習センター) 「歌舞伎入門(2018秋)」	歌舞伎の基本講座 講師:安田文吉(人文学部特任教授) 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)	2018.10.3～ 10.31 毎週水曜 10:40～12:10 全5回	名古屋キャンパス	延92	共催

【 地域連携推進室 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参 加 人 数)	種別
12	【名古屋市委託事業】 名古屋土曜学習プログラム 「造形表現体験学習」	自然素材である「枝」に、様々なひもを巻きつけ立体作品を制作 講師:小島雅生(教育学部准教授)	①2018.11.17 ②2018.11.24	①清水小 ②植田南小	①43(4) ②68(5)	連携
13	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2019」ボランティアスタッフ事前研修会・派遣	学生ボランティアの事前研修・派遣 責任者:木村華織(スポーツ健康科学部講師) 講師:安藤佳代子(日本福祉大助手)	2019.2.12 2019.3.10	三好キャンパス ナゴヤドーム 瑞穂競技場	(17)	協力
14	2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業 次世代につなぐスポーツ人材育成事業(サッカー)	ジュニアサッカー選手の強化事業 講師:星川佳広(スポーツ健康科学部准教授) 黒須雅弘(スポーツ健康科学部講師)	2019.2.23	三好キャンパス	18 (13)	協力

【 三好ともいきスポーツクラブ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数)	種別
1	健康運動俱楽部	中・高齢者向け運動教室 講師:東郷町施設サービス(株)	通年 毎週月曜 9:30～10:30	三好キャンパス 5号館ダンススタジオ	延201 (延9)	主催
2	グラウンドゴルフ俱楽部	高齢者向け運動教室 責任者:島岡清(スポーツ健康科学部 特任教授)	通年 毎週火曜 9:00～10:00	三好キャンパス 第2グラウンド	延881 (延38)	主催
3	公園体操	高齢者向け運動教室 講師:島岡清(スポーツ健康科学部 特任教授)	通年 毎週水曜 9:00～10:00	三好丘桜公園	延800 (延25)	主催
4	スポーツ吹矢俱楽部	高齢者向け運動教室 講師:木村綾子(スポーツ吹矢協会指 導員)	通年 毎月第1・3木曜 9:30～11:30	高嶺公民館	延130	主催
5	ポールウォーキング俱楽部	中・高齢者向け運動教室 講師:島岡清(スポーツ健康科学部 特任教授)	通年 毎週金曜 9:00～10:00	三好キャンパス 第1グラウンド	延1201 (延21)	主催
6	マシントレーニング俱楽部	中・高齢者向け運動教室 責任者:島岡清(スポーツ健康科学部 特任教授)	通年 毎週土曜 9:00～12:00	三好キャンパス 5号館トレーニング ルーム	延268 (延65)	主催
7	ピンポン俱楽部	中・高齢者向け運動教室 責任者:島岡清(スポーツ健康科学部 特任教授)	通年(9月～) 毎週土曜 9:30～12:00	三好キャンパス 5号館ダンススタジ オ	延99 (延24)	主催
8	キッズダンスくらぶ	小学生向けの運動教室 主任講師:田中望(スポーツ健康科学 部講師) 指導者:スポーツ健康科学部学生	通年 毎週火曜 18:15～19:15	三好キャンパス 5号館ダンススタジ オ	延387 (延 181)	主催
9	ともいき体操くらぶ	小学生向けの運動教室 主任講師:岡本敦(スポーツ健康科学 部教授) 指導者:スポーツ健康科学部学生 他	通年 毎週土曜 9:00～10:30	三好キャンパス 5号館アリーナ	延769 (延 210)	主催



平成 30 年度地域連携支援プログラム報告

発行：東海学園大学

発行年月：令和元年 7 月

名古屋キャンパス

住所：〒468-8514 名古屋市天白区中平 2-901

TEL : (052) 801-1201 FAX : (052) 804-1044

三好キャンパス

住所：〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞 21 番地 233

TEL : (0561) 36-5555 FAX : (0561) 36-6757